

## 郵船／MTIグループの研修受講者が施設見学

日本郵船／MTIグループの研修受講者 16 名ならびに講師の方々が7月10日、水槽施設を中心に当研究所の施設を見学しました。

同グループは同日午前にも本館1階会議室でMTI主催による「モノはこび新技術研修～船舶技術編」を開催、MTI技術戦略グループ船舶技術ユニットの井上知己さんと上野周作さんが講師となり、MTIと当研究所との共同研究事例などを紹介しました。研修に参加したのは、日本郵船をはじめ、旭運輸、NYKビジネスシステムズの社員の方々です。



技術研修風景

施設見学は同研修の一環として行われたもので、午後から深海水槽、400 m試験水槽、実海域再現水槽の3つの水槽施設とディーゼルエンジンを見学しました。事務局のMTI技術戦略グループならびに人材育成グループからは「受講者一同、今まで見たこともないスケールの大きな実験設備を見学でき、大変充実した研修となりました」「見学ルートも午前中の講義と関連のある施設を中心に組んでくださり、より理解が深まったのでは、と感じています」との言葉をいただきました。



10号館実験棟で

## 太田国際連携センター長が都内で出前講座

当研究所の太田進・国際連携センター長が7月23日、ホテルオークラ（エメラルドルーム）で「銅精鉱の運送に係る国際基準」（International regulations for carriage of copper concentrate in bulk）と題し、海洋汚染防止条約附属書第5章、船舶の防火要件及び危険物を運送する際の要件、国際海上固体ばら積み貨物コード等についてプレゼンテーションを行いました。

これは、国際銅協会（International Copper Association）の依頼により、銅鉱石及び精鉱に関する化学品の分類・表示に関する世界調和システム－分類・表示の方法、計算・適用・国際海事機関の鉱石及び精鉱の輸送に関するポリシー会議で講演したものです。正式名称は Global Harmonization System for Hazard Classification (GHS) of Copper Ores and Concentrates – Methods, Calculations, and Application to Classification and Labeling (CL) and the International Maritime

Organization' s (IMO) policy on transport of ores and concentrates on the high seas. というものです。

同会議には約 10 カ国から約 40 人が参加し、活発な質疑応答が行われました。

